



長野峠を越える道 ~長野隧道の移り変わり~

国道163号を市街地から西に車を走らせると、美里町平木の集落を過ぎた伊賀市との境に、長野峠を越える新長野トンネル(平成20年開通、長さ1,996m)が見えてきます。トンネルの手前を左折すると、昭和時代に開通し、現在は閉鎖されている長野隧道(長野トンネル)に突き当たります。案内板に従い、道の左手から山腹を徒歩で200mほど進むと姿を現すのが明治時代に開通した旧長野隧道です。

長野峠を越える伊賀街道は、津藩政下の津と伊賀上野間を最短で結ぶ経路であり、参宮の人々が多く通る道でもありました。明治元(1868)年に阿波村(現伊賀市)から、物資の流通や通行の便を考慮して低い位置に緩やかな道を造る提案がされました。峠の東側の長野村と高宮村(現津市)がこれに賛同して協議が重ねられ、隧道を掘削することになり、明治13年11月に着工、明治18年6月に旧長野隧道は完成しました。人力で掘り抜かれた隧道は長さ216m。残念ながら西側は土砂でほとんど埋没していますが、東側の坑門(出入口部分)は重量感のある明治時代の姿を良好に残しています。坑門は峠の岩盤を逆台形に削り、花こう岩の

切石を積み上げています。アーチ部分は一重の迫石で、銚状模様に御影石を組み込んでいます。アーチの高さは3.6m、最大幅は4.6mで、荷車なども通れる道でした。

その後も、長野峠越えは津と関西方面を最短で結ぶルートとして重要視され、県道として一部が直線化されるなどの改修が進み、昭和14年に新たなトンネルである長野隧道(長さ約300m、幅員5.5m)が完成しました。

長野隧道のすぐ手前には、旧長野隧道の東西の坑門から取り外された銘板や長野隧道補修記念碑が並び、徒歩や荷車から大型車が通れるようにと移り変わってきた歴史を今も静かに物語っています。



旧長野隧道(津市側) ※内部へは入れません。



旧長野隧道の銘板(津市側)

